

【選定された対策構造物・工法】

工法①：^{まちうけしき}待受式^{ようへき}コンクリート擁壁



【工法の概要】

高さ 4.0m~5.0m 程度のコンクリート擁壁を設置し、崩壊した土砂を受け止める工法。

工法②：^{ほうかいどしやぼうごさく}崩壊土砂防護柵



【工法の概要】

高さ 5.5mの鋼管を建て込み、その間にワイヤーネットを張ることで、崩壊した土砂を受け止める工法。
待受式コンクリート擁壁よりも、狭いスペースで設置することができる。

工法③：^{きりど ふきつけのりわく}切土+吹付法柵



【工法の概要】

山を掘削し、その表面にコンクリートの柵組を設置することで、斜面を安定させる工法。柵内は植物を生育する。

航空写真
および
想定される工法



〈凡例〉

- : 工法①
- : 工法②
- : 工法③を想定

